

3.11 伝承ロード New Destination プラン 第1回 三陸沿岸道路エリア活性化検討会

日時：令和4年7月13日（水）14時00分～
会場：フォレスト仙台 2階「第10会議室」

次 第

1. 開会
 - 1) 規約案について
 - 2) 座長の選出

2. 議事
 - 1) 趣旨説明
 - 2) 三陸沿岸地域の現況
 - 3) 意見交換
 - 4) 今後のスケジュール
 - 5) その他

【配布資料】

議事次第

検討会委員名簿

規約案

資料－1 3.11 伝承ロード New Destination プラン

資料－2 三陸沿岸地域の現況

資料－3 意見交換

資料－4 今後のスケジュール

「3.11 伝承ロード New Destination プラン」

三陸沿岸道路エリア活性化検討会 委員名簿

	氏名	役職	所属
1	阿部 憲子	専務取締役 女将	南三陸ホテル観洋
2	阿部 寿一	専務理事	(一財) VISIT はちのへ
3	石井 扶佐子	業務執行理事 駅長	(一社) 思惟の風 道の駅たのはた
4	伊藤 加奈	道路計画第二課長	東北地方整備局道路部
5	太田代 剛	編集局次長兼記事審査部長兼論説委員会委員	岩手日報社
6	奥村 誠	教授	東北大学災害科学国際研究所
7	小嶋 淳一	参事兼課長	宮城県復興・危機管理部 復興支援・伝承課
8	紺野 純一	理事長	(一社) 東北観光推進機構
9	澤田 彰弘	総括課長	岩手県復興防災部 復興推進課
10	田中 秀樹	課長	青森県県土整備部 都市計画課
11	平澤 光昭	専務執行役員	岩手県北自動車株式会社
12	藤澤 修	副館長兼総務課長	東日本大震災津波伝承館
13	村上 晃史	支部長	(一社) 日本旅行業協会 東北支部
14	安野 賢吾	編集局次長兼防災・教育室長	河北新報社
15	脇田 淳	営業部長	宮城交通株式会社

* 五十音順・敬称略

「3.11 伝承ロード New Destination プラン」
三陸沿岸道路エリア活性化検討会 規約（案）

令和4年7月13日

（名称）

第1条 この検討会は、三陸沿岸道路エリア活性化検討会(以下「検討会」という。)という。

（目的）

第2条 検討会は、三陸沿岸地域の新たな交流人口創出に向けた未来指向の地域活性化を図るため、観光コンテンツと周遊プログラムを踏まえたツアールートとともに、三陸沿岸道路の利用促進の検討を行うことを目的とする。

（委員）

第3条 検討会の委員は、別紙のとおりとする。

（座長）

第4条 検討会に座長を置く。

2 座長は、委員の確認によってこれを定める。

3 座長は、検討会の議長となり、議事の進行に当たる。

4 座長に事故があるときは、委員のうちから座長が指名する者が、その職務を代理する。

（委員以外の者の出席）

第5条 座長が必要と認めるときは、委員以外の者に対し、検討会に出席してその意見を述べ又は説明を行うことを求めることができる。

（会議）

第6条 検討会は、原則公開とする。

2 検討会の資料及び議事については、公開とする。ただし、座長が必要と認めるときは、その一部を非公開とすることができる。

（雑則）

第7条 この規定に定めるもののほか、検討会の運営に関して必要な事項は、座長が別途定める。

以上

三陸沿岸道路の全線開通を契機として新たな交流人口を創出する

「3.11伝承ロード New Destination プラン」

～地域観光資源と震災伝承施設を融合させた新たな周遊モデル開発事業～



一般財団法人3.11伝承ロード推進機構

目 的

東日本大震災からの10年を契機に新たな復興ステージのアクションとして
全359kmに及ぶ三陸沿岸道路を活用して各地の観光コンテンツと震災伝承施設を融合させ、
「三陸沿岸地域の新たな交流人口創出に向けた未来志向の地域活性化を図る」

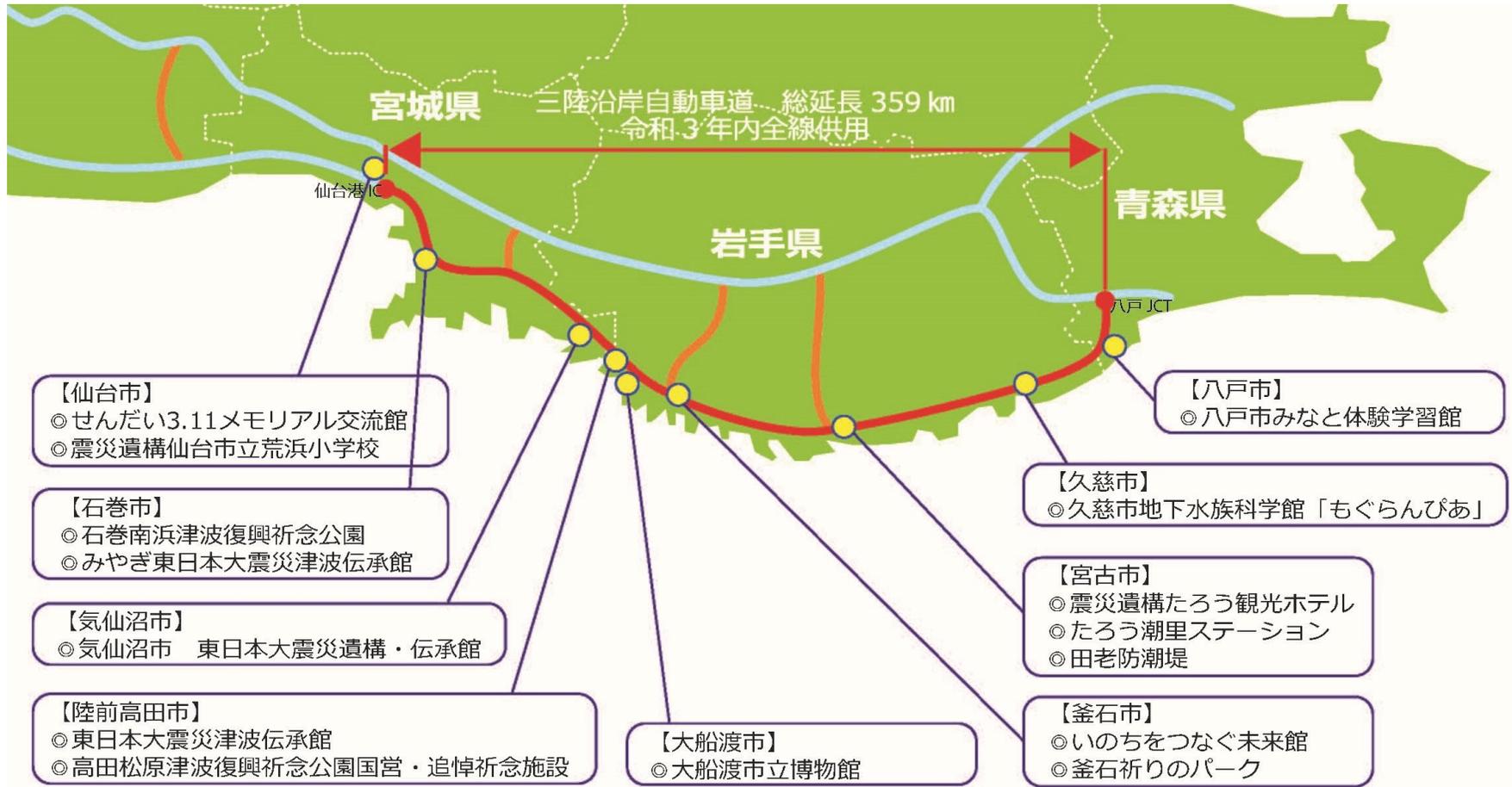
企画の特徴

旅行事業者と地元の観光関連事業者等が一体となり、
観光地訪問や被災関連施設視察など個々の目的を融合した
ハイブリッド型東北エリアツーリズムを目指した事業実施の可能性を検討

東北エリアの観光事業に携わる関係各社とコンソーシアムを形成し、
旅行、観光、防災学習コンテンツの創出において、

新たな切り口から付加価値のあるツアープログラムの開発を検討

(=観光コンテンツと震災伝承施設を融合させた周遊プログラムの開発とツアールート の提案)



※三陸沿岸自動車道にある主な震災伝承施設

【震災伝承施設】

令和3年7月現在で、288施設が登録されている。

【来館者状況】

- 陸前高田市にある東日本大震災津波伝承館の来館者数は、オープンから2年の9月末で40万人を超えた。
- 気仙沼市の東日本大震災震災遺構・伝承館の来館者数は、開館から1年6ヶ月の9月末で10万人を超えた。

八戸市から仙台市に至る三陸沿岸道路（全長359km）は以下の特徴を有する。

三陸沿岸道路の機能特性

特徴① 国の骨格を成す幹線道路

- 東北道と並行し、八戸～仙台間の代替路となっている。（緊急時や災害時のリダンダンシーの役割）

特徴② 自動車専用道路

- 車線数は仙台市近郊50km間は4車線、残りは2車線となっているが自動車専用道路として整備されている。
- IC数は77箇所と利用者を重視した配置。

特徴③ 貴重な休憩施設群

- 沿道には休憩施設は少ない。SAは宮城県内に2箇所、PAは全線で5カ所。沿道付近には12箇所の道の駅。

特徴④ 強靱化に配慮したルート

- 東日本大震災の津波被害が甚大となったエリアを通過することから、津波浸水区域を避けたルートとなっている。（橋、トンネル等の構造物比率の高い道路構造）

三陸沿岸道路の地域特性

特徴⑤ 冬季でも安全走行が可能

- 走行エリアの気候は降雪量が少なく、降雪期でも安全走行が可能である。

特徴⑥ 風光明媚な景観

- リアス式海岸を通過することから沿道随所から風光明媚な景観を楽しめる。

特徴⑦ 震災伝承のメッカ

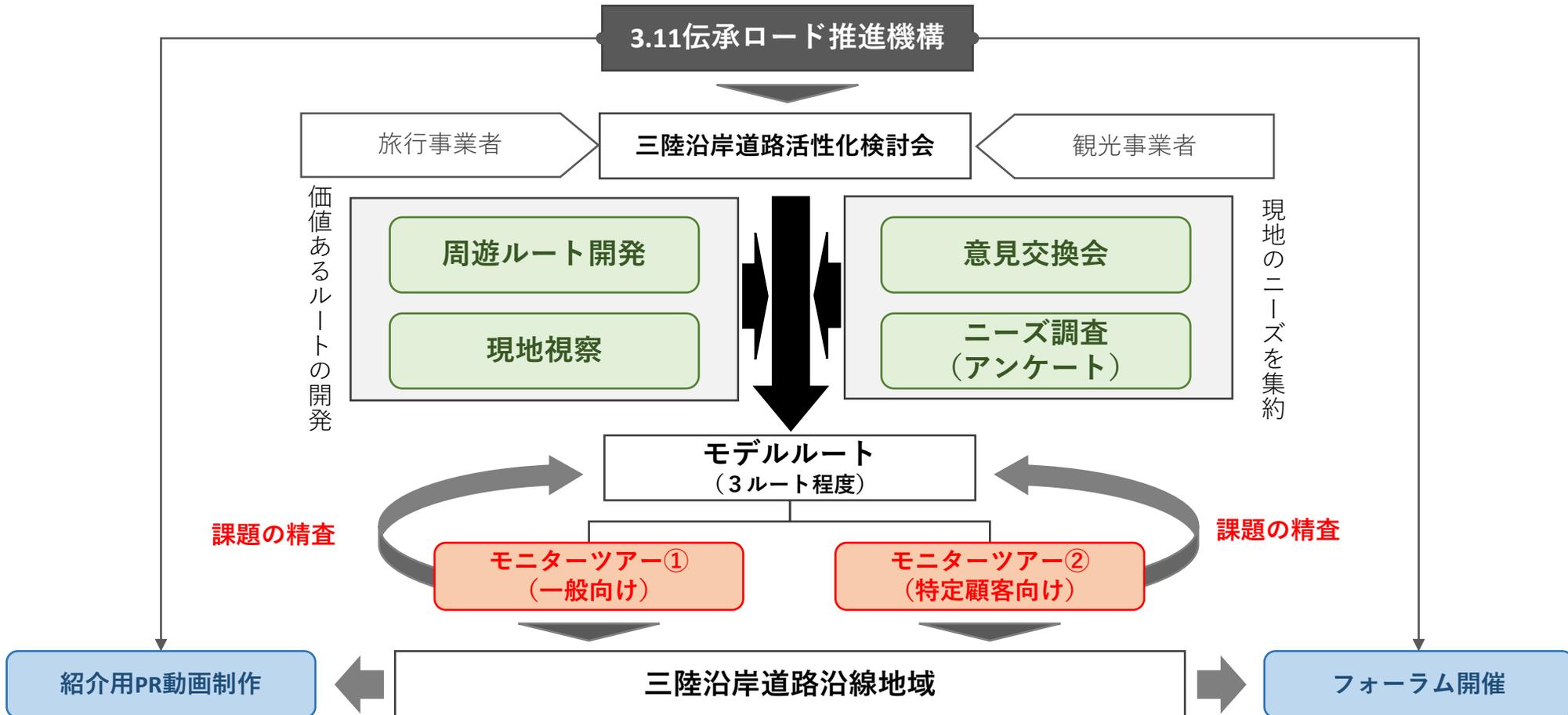
- 震災遺構や伝承施設が数多くあり、小中高の防災教育や修学旅行等に活用され、震災伝承のメッカとなっている。（沿道には震災伝承施設が202箇所）

特徴⑧ 豊富な食文化との出会い

- 三陸沖は世界三大漁場の一つであり、魚介類を中心に豊かな食文化がある。

三陸沿岸の新たな観光ルートの開発に向け、より価値の高いコンテンツと周遊プログラムのあり方を模索し、持続可能な事業環境を検討しながら、以下の3つの事業を実施する。

- | | |
|---|--------------------------|
| ① | 新たな周遊ルート開発可能性調査 |
| ② | モデルルートでのモニターツアーの実施 |
| ③ | 三陸沿岸道路及び周辺エリアの魅力を伝える情報発信 |



ツアープログラムの開発対象エリアのリスト（案）

- ①石巻エリア（石巻市）
→震災復興による賑わいの創出を図る旅
- ②登米エリア（登米市）
→明治時代にタイムスリップできる旅
- ③南三陸エリア（南三陸町）
→伝承と海の幸を満喫できる旅
- ④気仙沼エリア（気仙沼市）
→復興施設と海の幸を満喫できる旅
- ⑤陸前高田エリア（陸前高田市）
→新たなまちと産業に触れ合える旅
- ⑥大船渡エリア（大船渡市）
→自然豊かで風光明媚な景色を味わえる旅
- ⑦釜石エリア（釜石市・上閉伊郡）
→鉄と魚とラグビーのまちへの旅
- ⑧宮古エリア（宮古市・下閉伊郡）
→断崖絶壁のスリルと津波の教訓が理解できる旅
- ⑨久慈エリア（久慈市・九戸郡）
→天然資源と海景色に恵まれた旅
- ⑩八戸エリア（八戸市・三戸郡階上町）
→北東北随一の工業都市への旅

対策1：三陸沿岸道路エリア活性化検討会の設置と運営

- 東北エリアで活動する旅行事業者・観光関連事業者等を集め、**一体となって観光コンテンツや周遊プログラム等のツアールートのある方を模索**。加えて、ツアールートを支援するイベントや三沿道の利用促進策も検討（複数回開催、メンバーは15名程度等）

対策2：現地視察

- 有望なコンテンツや周遊プログラムについては、直接現地に赴き、**ツアールート開発に関わる課題や問題点などを精査**。
※1ルート2回×3ルート

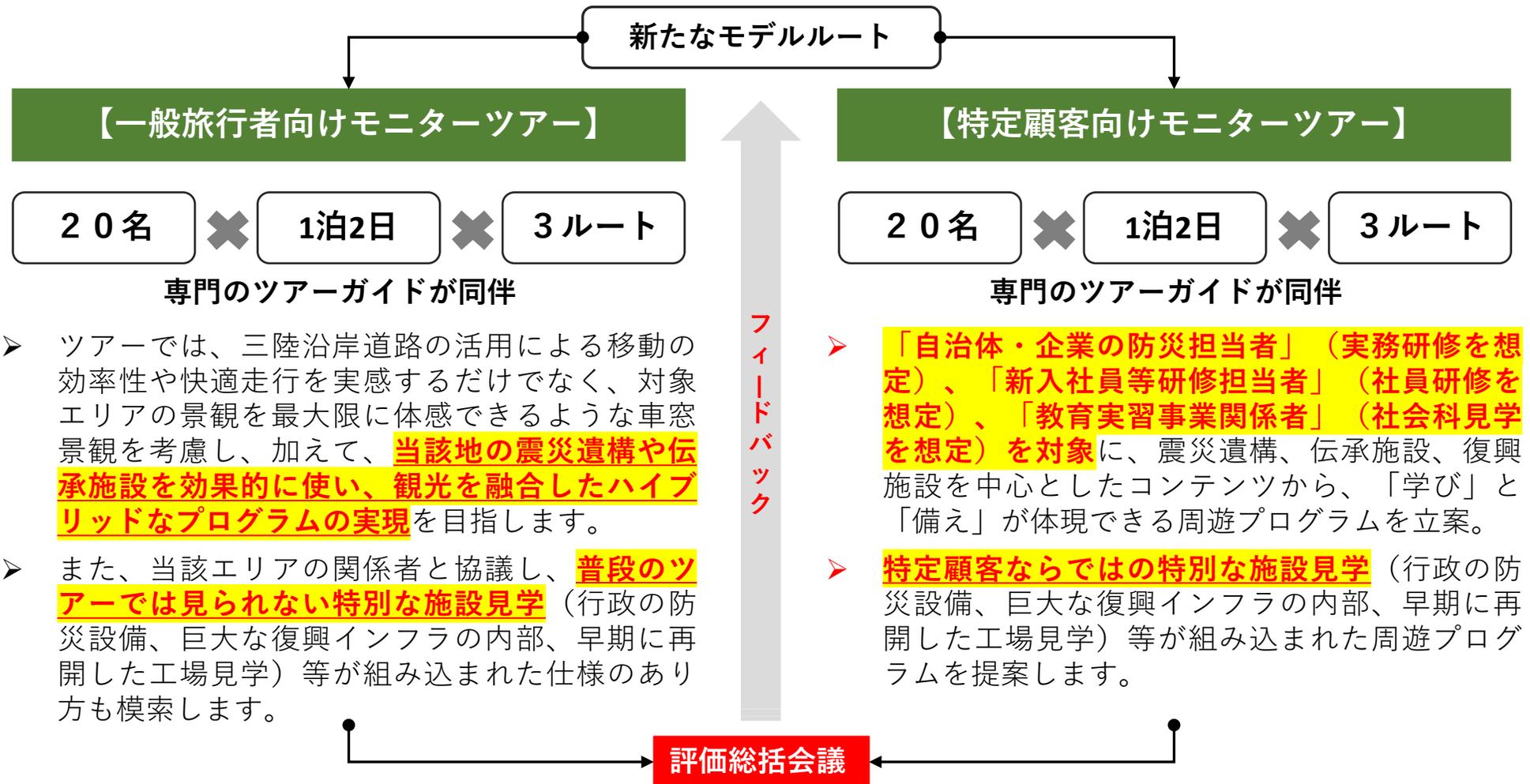
対策3：当該エリア関係者との意見交換会

- 事業の**具現化に向けて当該の観光施設事業者や地元自治体と直接対話**し、課題解決の方策やより魅力的なコンテンツや周遊プログラムについて意見交換。
※現地視察を組み合わせた意見交換会と、仙台市内での個別の意見交換会を想定（計6回）

対策4：ニーズ調査

- エリア住民から多くの声（数百件）を集約するため、**オンラインによるアンケートを実施し、ニーズを把握**する。
- 調査結果については、事業に反映するだけでなく、当該エリアの観光関連事業者、震災伝承施設関係者等へ提供し、サービスやホスピタリティの向上と、より魅力的なコンテンツや周遊プログラムに向けた活用を図る。

新たに検討した3つのモデルルートについて、コンテンツと周遊プログラムとともにツアールート総合的な観点も含めて評価し、価値化を確認するために、モニターツアーを実施。



モニターツアーを通じてコンテンツ周遊プログラム、ツアールートにおける多方面から評価し、価値化の検討及び今後の課題・問題点などを整理。

動画やフォーラム等の展開を通じて
三陸沿岸道路で激変した移動環境や三陸沿道路周辺の魅力を多くの人に知ってもらう

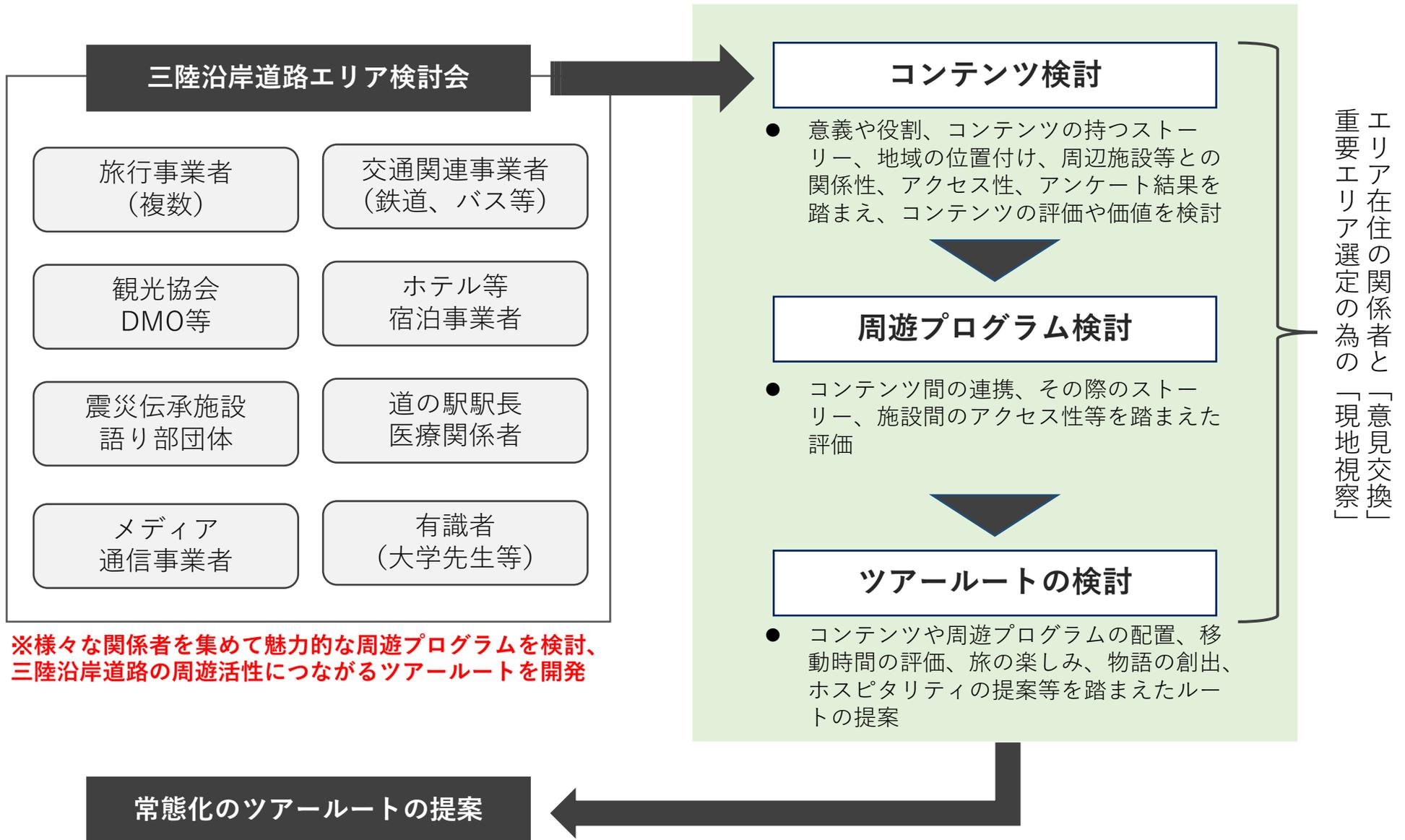


動画で応援、震災伝承施設

三陸沿岸道路周辺に点在するあらゆる震災遺構や伝承施設の魅力と価値（真実と教訓）を知ってもらうとともに、地域の観光資源も紹介するPR動画を制作、YouTubeや本機構のHP、旅行事業者の各店舗で放映し、三陸沿岸道路を利活用した交流拡大、地域活性化を支援する。

三陸沿岸道路、活性化フォーラム

三陸沿岸道路を利活用した三陸沿岸地域の交流人口活性化のあり方を旅行事業者と地元関係者が一緒に考えて語り合う「三陸沿岸道路活性化フォーラム」を開催する。基本、本機構が主体となり、10の対象エリアで持ち回りで開催するスキームを検討し、継続事業として展開していく。



参考資料：ツアープログラムの開発対象エリアのリスト（案）

① 石巻エリア（石巻市・女川町）：震災復興による賑わいの創出を図る旅

- 石巻港ICから河北ICまでの区間を活用したミニ周遊コース
- 観光施設等：石ノ森萬画館、日和山公園、いしのまきマンガロード、サイボーグ009ブロンズ像、シーパルピア女川 等（時間的余裕があれば金華山等も含める）
- 震災伝承遺構：石巻南浜津波復興祈念公園、石巻ニューゼ、東日本大震災メモリアル南浜つなぐ館、伝承交流施設MEET門脇、旧北上川築堤事業、石巻市震災遺構大川小学校、震災遺構女川交番 等
- 道の駅：「上品の郷」、「おながわ」

② 登米エリア（登米市）：明治時代にタイムスリップできる旅

- 桃生津山ICから三滝堂ICまでの区間を活用したミニ周遊コース
- 観光施設等：柳津虚空蔵尊、横山不動尊、みやぎの明治村、長沼フットピア公園、伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター、津島神社、石ノ森章太郎ふるさと記念館、チャチャワールド・いしこし 等
- 道の駅：「津山もくもくランド」、「三竜堂」、「米山」、「みなみかた」、「林林館」

③ 南三陸エリア（南三陸町）：伝承と海の幸を満喫できる旅

- 志津川ICから歌津ICまでの区間を活用したミニ周遊コース
- 観光施設等：サンオーレそではま海浜公園、南三陸ホテル観洋、南三陸さんさん商店街、南三陸ワイナリー、荒島、さとうみファーム（シーカヤック）、さんさん館 等
- 震災伝承施設：海の見える命の森、南三陸町震災復興祈念公園（旧南三陸町防災庁舎）、震災遺構高野会館

④ 気仙沼エリア（気仙沼市）：復興施設と海の幸を満喫できる旅

- 大谷海岸ICから唐桑半島ICまでの区間を活用したミニ周遊コース
- 観光施設等：モーランド・本吉、大谷海岸、岩井崎「潮吹岩」、気仙沼市漁港、海の市・シャークミュージアム、気仙沼湾クルージング、気仙沼湾横断橋、気仙沼大島大橋、リアス・アーク美術館、唐桑オルレ 等
- 震災伝承施設：気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館（旧気仙沼向洋高校）、気仙沼復興祈念公園、唐桑ビクターセンター・津波体験館
- 道の駅：「大谷海岸」

⑤ 陸前高田エリア（陸前高田市）：新たなまちと産業に触れ合える旅

- 陸前高田長部ICから通岡ICまでの区間を活用したミニ周遊コース
- 観光施設等：黒崎仙狭、大滝小滝、玉乃湯、普門寺、気仙大工左官伝承館、高田松原発酵パーク CAMOCY、川の駅よこた、ワタミ・オーガニックランド 等
- 震災伝承施設等：高田松原津波復興祈念公園、東日本大震災津波伝承館（愛称：いわてTSUNAMIメモリアル）、奇跡の一本松、ハナミズキのみち、震災遺構タピック4 5、震災遺構気仙中学校、震災遺構ユースホテル、震災遺構米沢屋ビル、震災遺構下宿定住促進住宅 等
- 道の駅：「高田松原」

⑥ 大船渡エリア（大船渡市）：自然豊かで風光明媚な景色を味わえる旅

- 大船渡碁石海岸ICから吉浜ICまでの区間を活用したミニ周遊コース
- 観光施設等：乱曝谷（らんぼうや）、穴通磯、碁石海岸、不動滝、吉浜の津波石、大船渡碁石海岸観光まつり、大船渡市さんま焼き師認定試験、灯ろう七夕まつり 等
- 震災伝承施設：大船渡市立博物館、大船渡市民体育館前屋外時計、潮目、茶茶丸パーク時計塔
- 道の駅：「さんりく」

⑦ 釜石エリア（釜石市・上閉伊郡）：鉄と魚とラグビーのまちへの旅

- 釜石南ICから大槌ICまでの区間を活用したミニ周遊コース
- 観光施設等：釜石大観音、釜石市立「鉄の歴史館」、世界遺産橋野鉄鉱山、釜石鵜住居復興スタジアム、根浜海岸、蓬萊島、吉里吉里海岸、浪板海岸
- 震災伝承施設：うのすまい・トモス（釜石祈りのパーク、いのちをつなぐ未来館）、大槌町文化交流センター「おしゃっち」 等
- 道の駅：「釜石仙人峠」

⑧ 宮古エリア（宮古市・下閉伊郡）：断崖絶壁のスリルと津波の教訓が理解できる旅

- 山田南ICから普代ICまでの区間を活用したミニ周遊コース
- 観光施設：浄土ヶ浜、青の洞窟、潮吹穴、宮古市魚菜市場、三陸シーカヤックスクール Sea-son、黒崎展望台、北山崎、普代浜園地キラウミ、堀内海岸、アンモ浦展望台 等
- 震災伝承施設：宮古市市民交流センター 防災プラザ、震災メモリアルパーク中の浜、田老防潮堤、たろう潮里ステーション、津波遺構たろう観光ホテル、東日本大震災津波記念碑、震災遺構明戸海岸防潮堤、羅賀ふれあい公園、島越ふれあい公園、普代水門、太田名部防潮堤、旧下安家地区応急仮設住宅、奇跡の東屋、野田村復興展示室 等
- 道の駅：「みやこ」、「たろう」、「いわいずみ」、「たのはた」

⑨ 久慈エリア（久慈市・九戸郡）：天然資源と海景色に恵まれた旅

- 野田ICから洋野種市ICまでの区間を活用したミニ周遊コース
- 観光施設等：諏訪神社、小袖海岸、小袖海女センター、久慈琥珀博物館、新山根温泉べっぴんの湯、北限の海女、内間木洞 等
- 震災伝承施設：ケルン・鎮魂の鐘と光、地下水族科学館「もぐらんぴあ」 等
- 道の駅：「のだ」、「くじ」、「白樺の里やまがた」、「おおの」

⑩ 八戸エリア（八戸市・三戸郡皆上町）：北東北随一の工業都市への旅

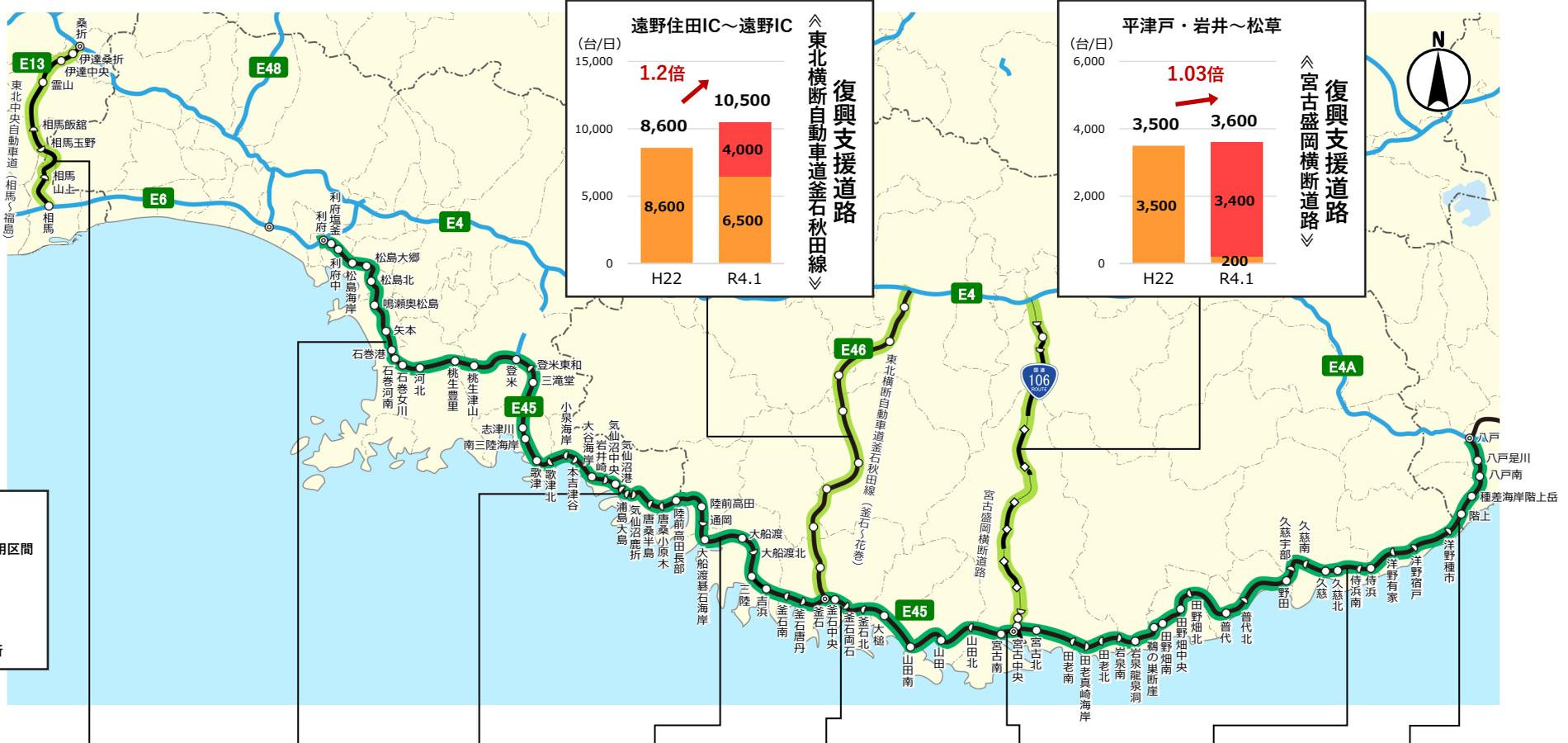
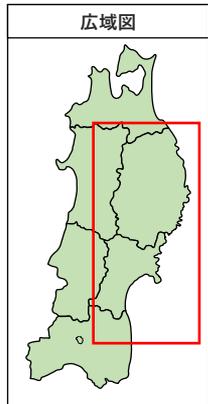
- 階上ICから八戸是川ICまでの区間を活用したミニ周遊コース
- 観光施設：八戸屋台村みろく横丁、種差天然芝生地、館鼻岸壁朝市、是川縄文館、八戸公園こどもの国、葦毛崎展望台 等
- 震災伝承施設：八戸市みなと体験学習館、八戸港震災復興メモリアル看板 等
- 道の駅：「はしかみ」、「なんごう」



三陸沿岸道路を中心とした 三陸沿岸地域の現況

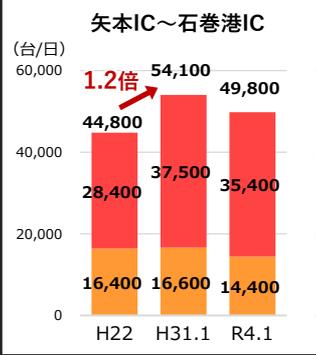
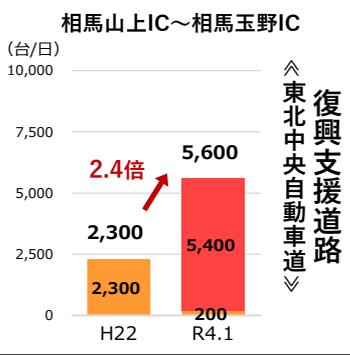
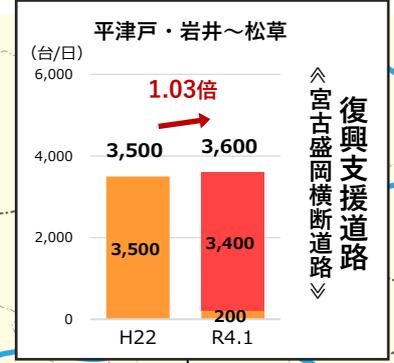
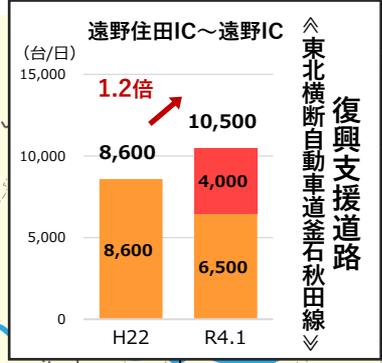
- ① 三沿道整備の推移
- ② 交通量の推移（2時点比較）
- ③ 時間短縮
- ④ 定時性（プローブデータによる）
- ⑤ 高速バスの導入
- ⑥ 観光客入込客数（八戸市～東松島市）
- ⑦ 休憩施設等の状況（SA/PAと道の駅(予定含む)）
- ⑧ 震災伝承施設の設置状況

② 交通量の推移 (2時点比較)



- 復興往路
- 復興支援道路
- 復興支援道路 現道活用区間
- その他高規格道路
- フルインター
- ハーフインター
- ジャンクション
- 現道活用区間接続箇所

- 国道
- 高規格道路



出典：H22…道路交通センサス

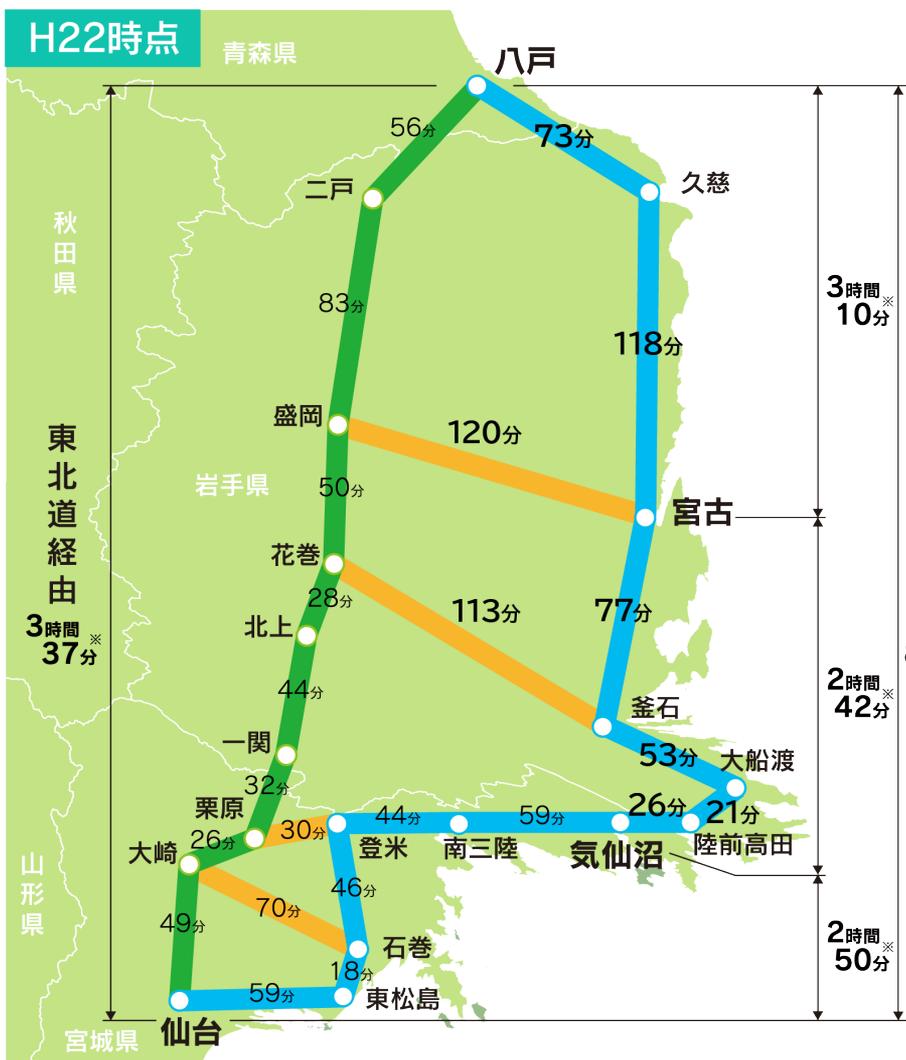
R4.1…トラフィックカウンターによる計測値 (平日平均※)

※三陸沿岸道路・東北縦貫自動車道の通行止めが発生した日は除く

※「平津戸・岩井～松草」の宮古盛岡横断道路、国道、「遠野住田～遠野」の国道、「相馬～福島」の国道は、R4.2.3 (木)の現地計測値

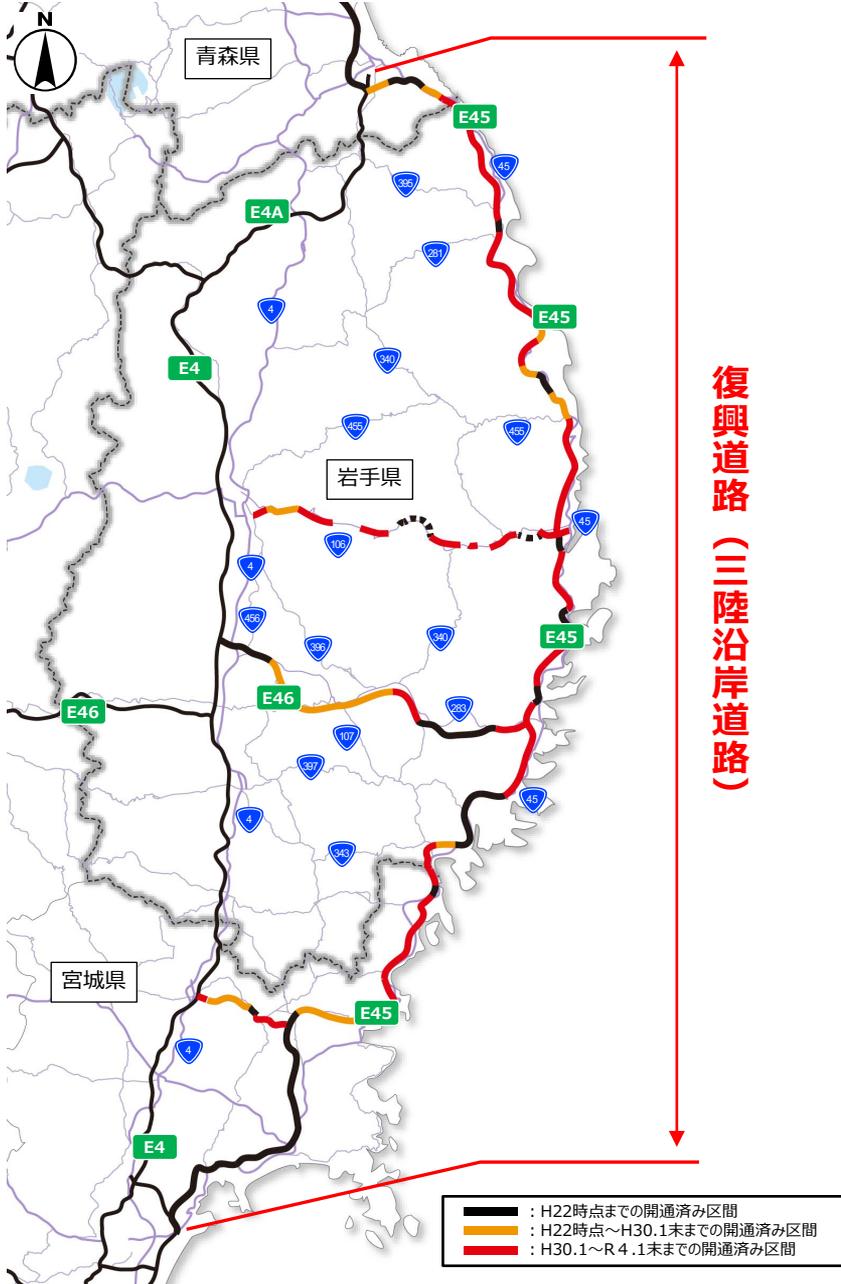
三陸沿岸を「時間地図[※]」で描く

※「距離」の代わりに、「所要時間」で位置関係を表現した地図

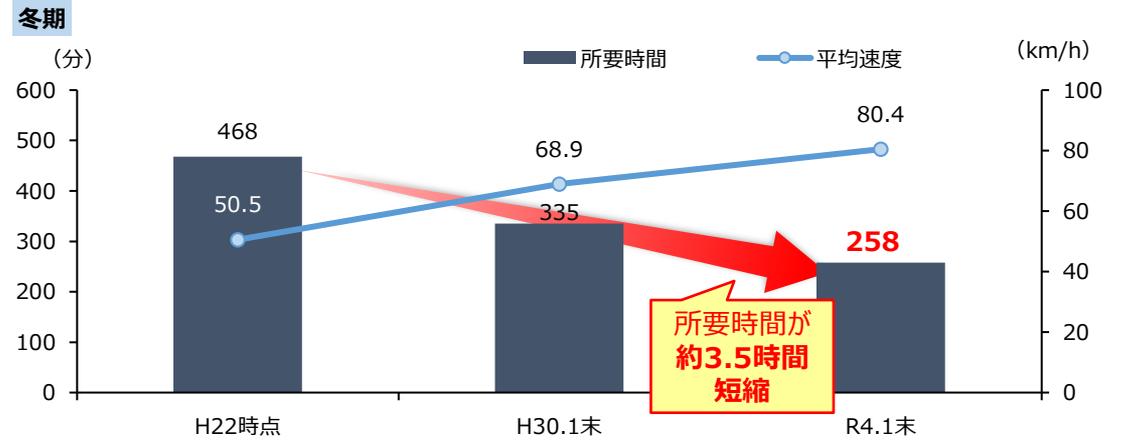


※役場間の所要時間のため、各区間の合計値と一致しない
出典:平成27年度 全国道路・街路交通情勢調査 (昼間非混雑時旅行速度により算出)

▼復興道路等の開通状況

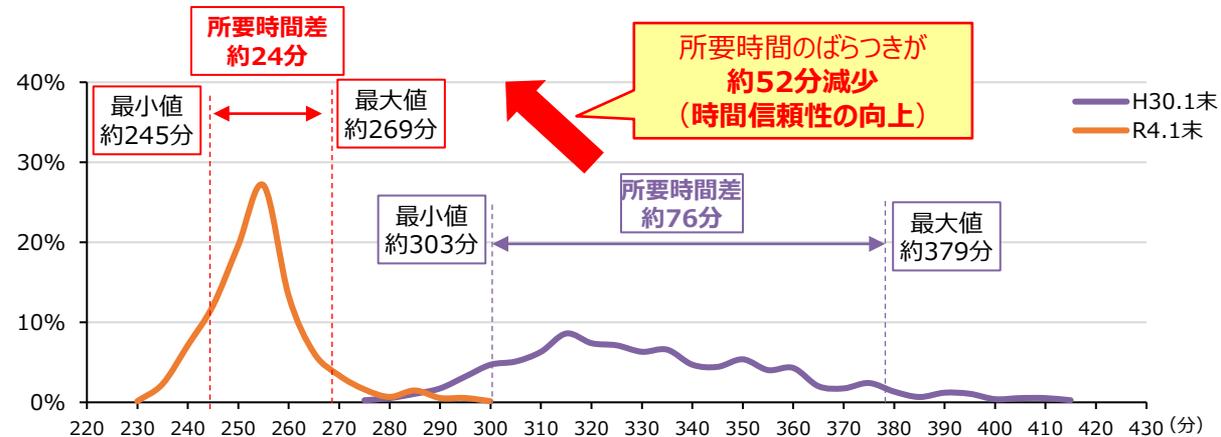


▼平均速度・所要時間の変化 (仙台港北IC～八戸南IC)



資料：H27道路交通センサス（昼間非混雑時上下平均速度をもとに所要時間を算出）
ETC2.0データ（対象区間全体の昼間12時間上下平均速度をもとに所要時間を算出）
※各時点における開通状況を踏まえてルートを設定。なお、H30.1時点は、下記の区間のDRMデータが無いので現道利用で算出
・登米東和IC～歌津IC、山田IC～宮古中央JCT

▼所要時間のばらつきの変化 (仙台港北IC～八戸南IC)



資料：ETC2.0データ（対象区間全体の昼間12時間上下平均速度をもとに所要時間を算出）
※各時点における開通状況を踏まえてルートを設定。なお、H30.1時点は、下記の区間のDRMデータが無いので現道利用で算出
・登米東和IC～歌津IC、山田IC～宮古中央JCT
※特異値（所要時間の上位10%、下位10%）を除いた所要時間のばらつき

復興道路・復興支援道路を利用した、新たな高速バス運行

実証実験

- 久慈・八戸高速バス
(1日4往復)
実証運行：R3.8～R3.10



- 宮古・気仙沼・仙台線 (1日2往復)
実証運行：R3.10～

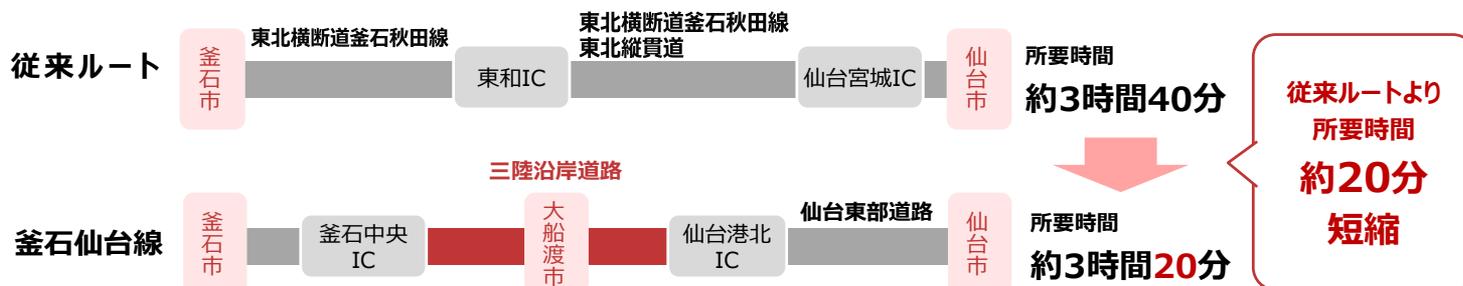


- 陸前高田-仙台 直行バス (1日2～3往復)
実証運行：R3.11～R4.1



ルート変更

- 釜石仙台線 運行開始 (1日1往復)
ルート変更：R3.7～



所要時間出典:岩手県交通HP



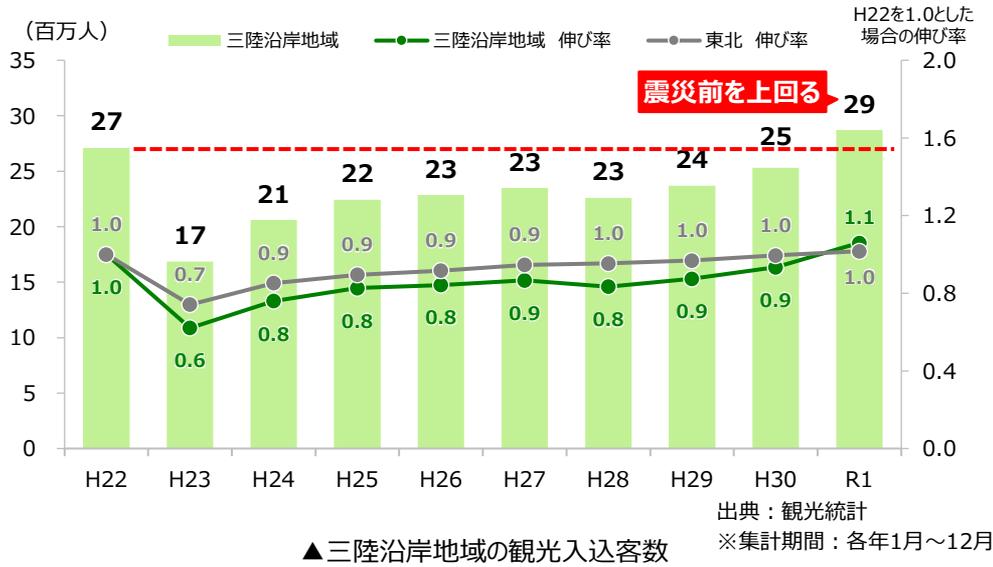
- 仙台気仙沼線

震災前※ 約2時間56分 6便 → 震災後 約2時間34分 12便
約22分 短縮

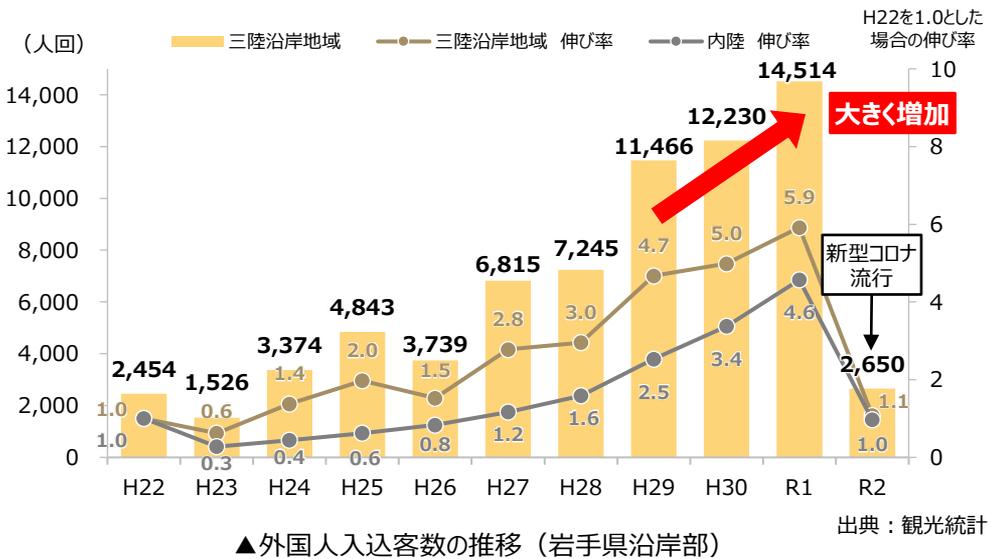
※震災前は仙台・南三陸線

出典:復興道路10年パンフレット【宮城県版】 (株)ミヤコーバス ヒアリング結果
ミヤコーバス時刻表

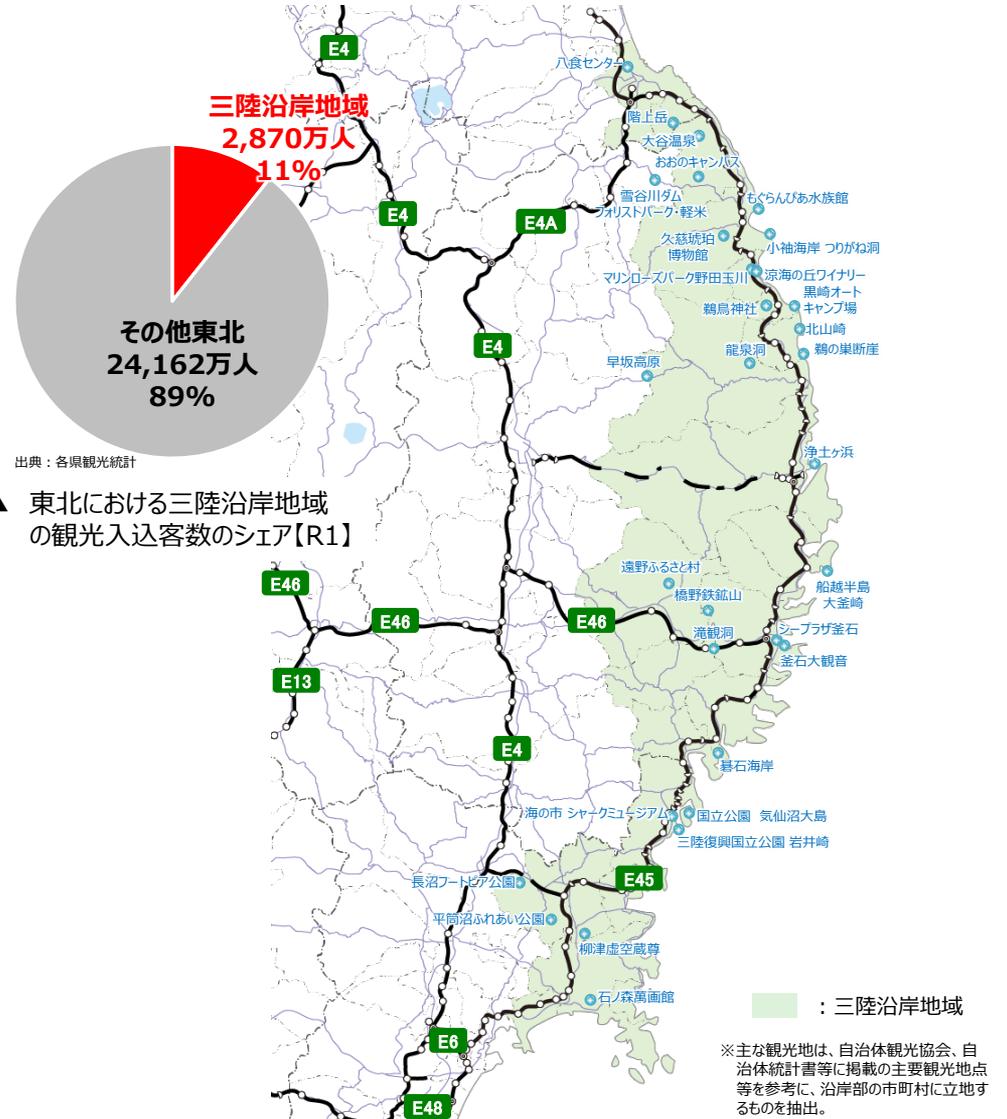
⑥ 観光客入込客数（八戸市～東松島市）



▲三陸沿岸地域の観光入込客数



▲外国人入込客数の推移（岩手県沿岸部）



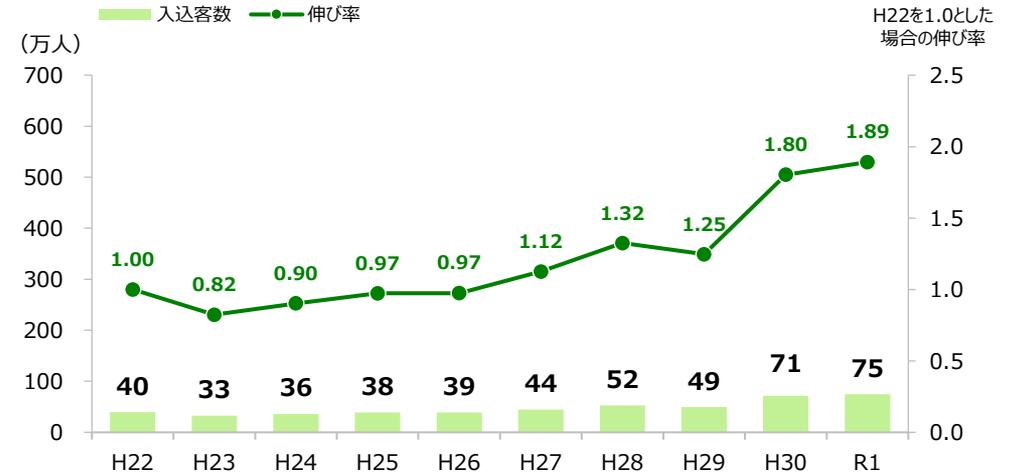
▲三陸沿岸地域と主な観光地

⑥ 観光客入込客数（八戸市・階上町・洋野町・久慈市）

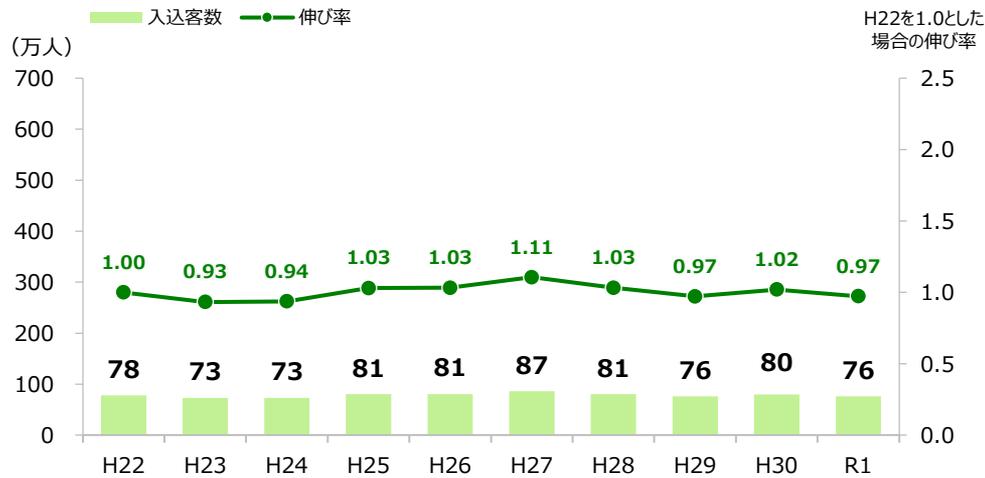
〔青森県八戸市〕



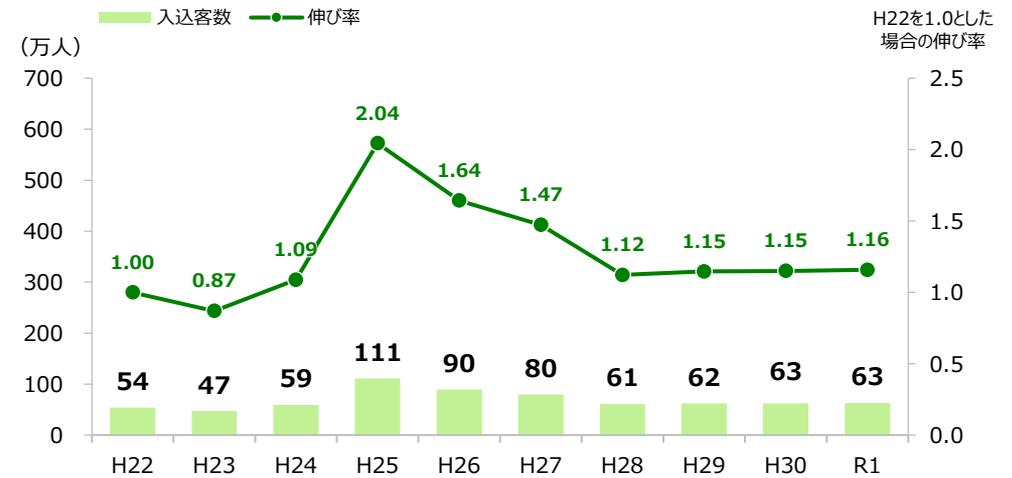
〔青森県階上町〕



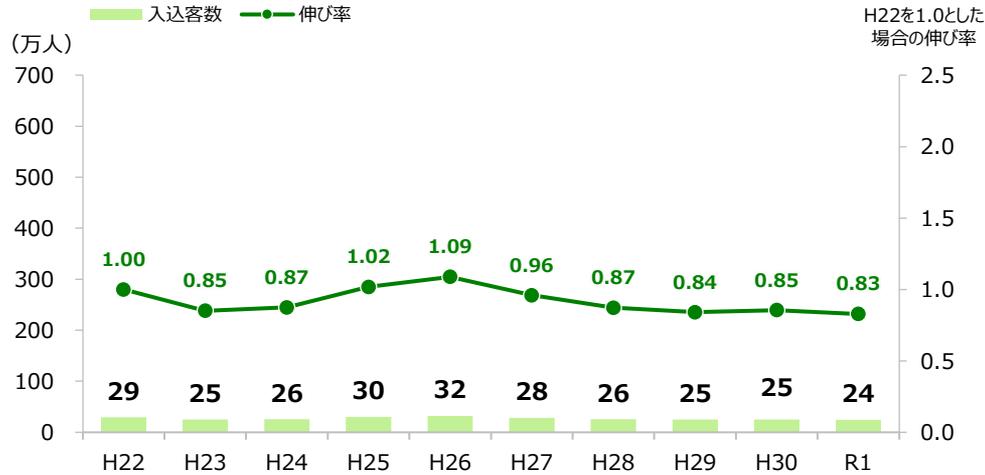
〔岩手県洋野町〕



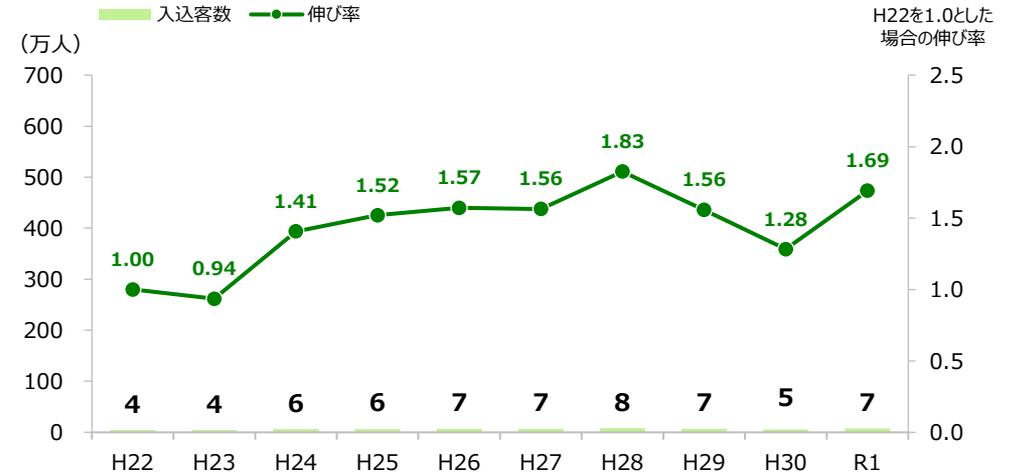
〔岩手県久慈市〕



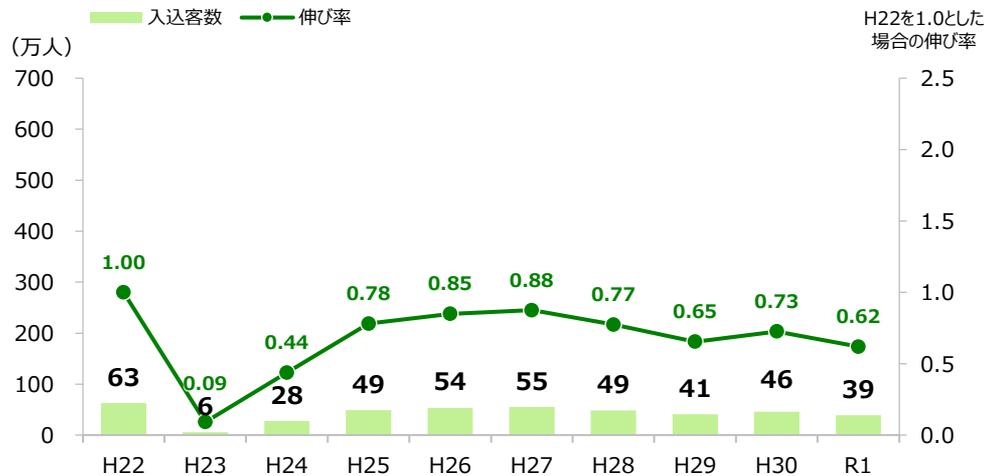
〔岩手県野田村〕



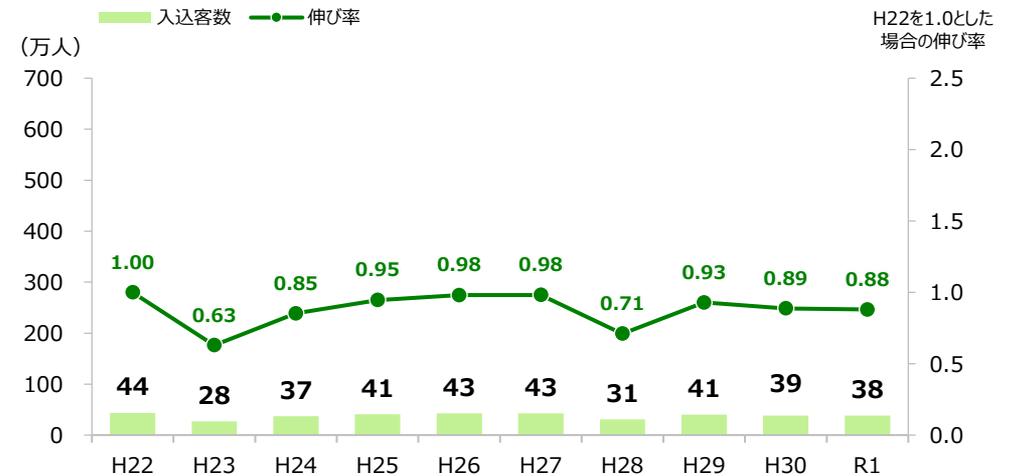
〔岩手県普代村〕



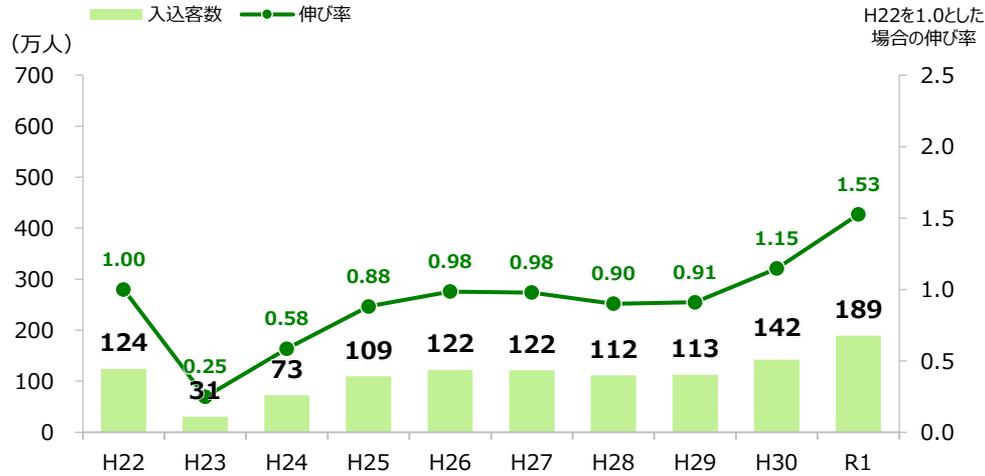
〔岩手県田野畑村〕



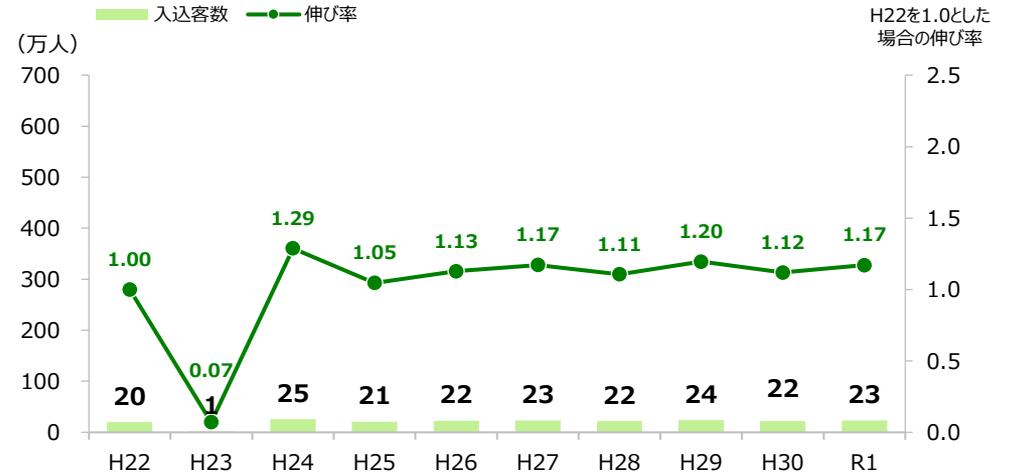
〔岩手県岩泉町〕



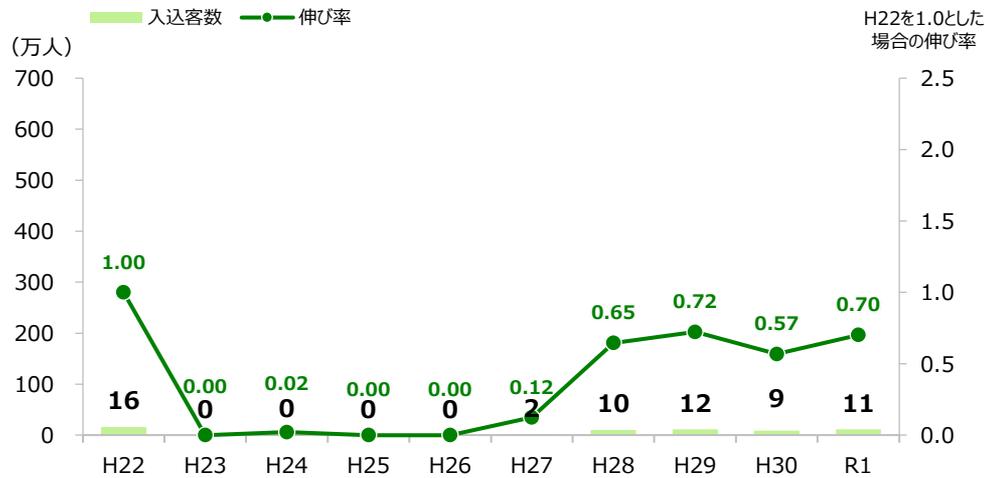
【岩手県宮古市】



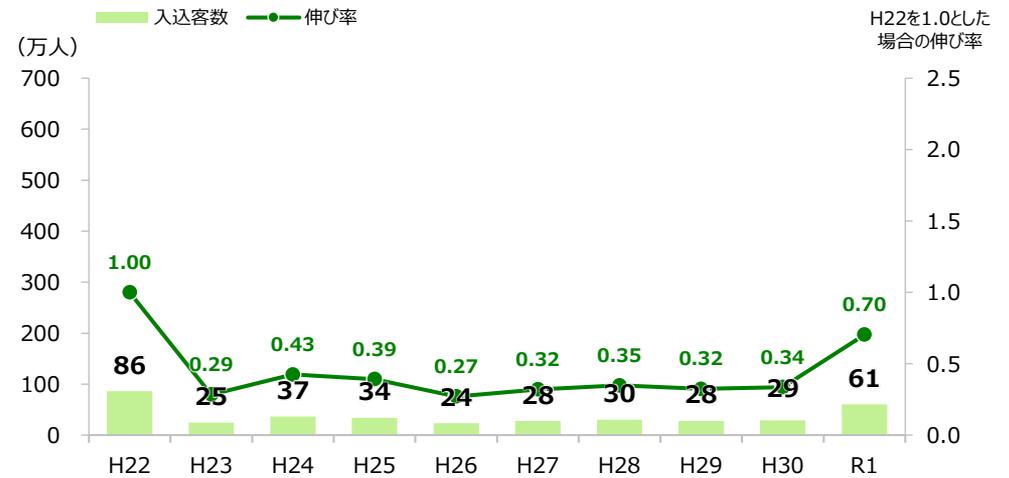
【岩手県山田町】



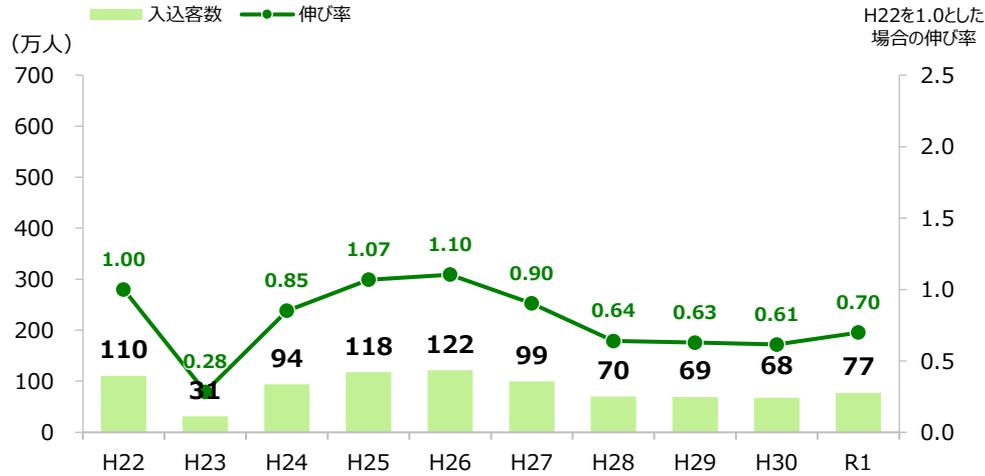
【岩手県大槌町】



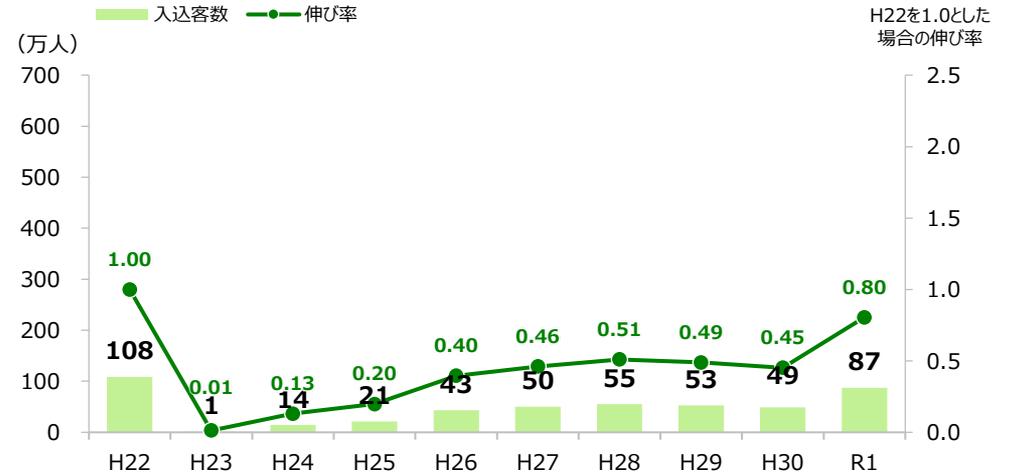
【岩手県釜石市】



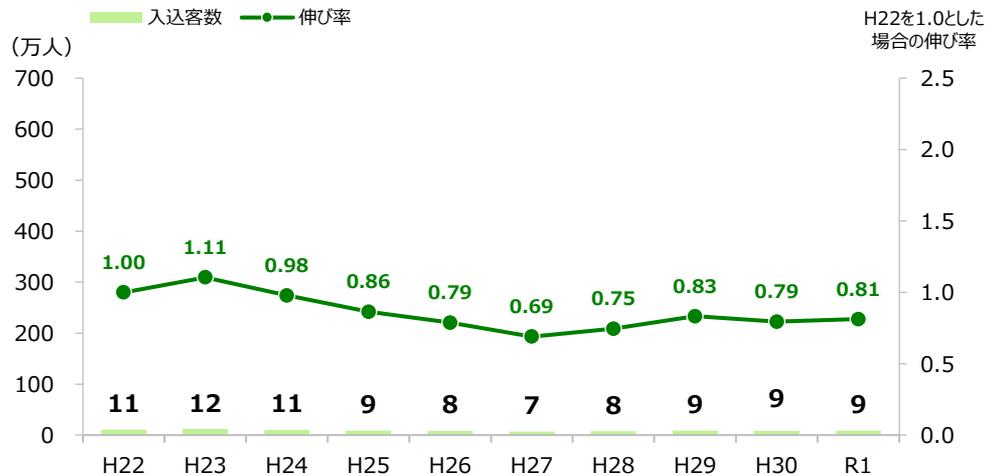
〔岩手県大船渡市〕



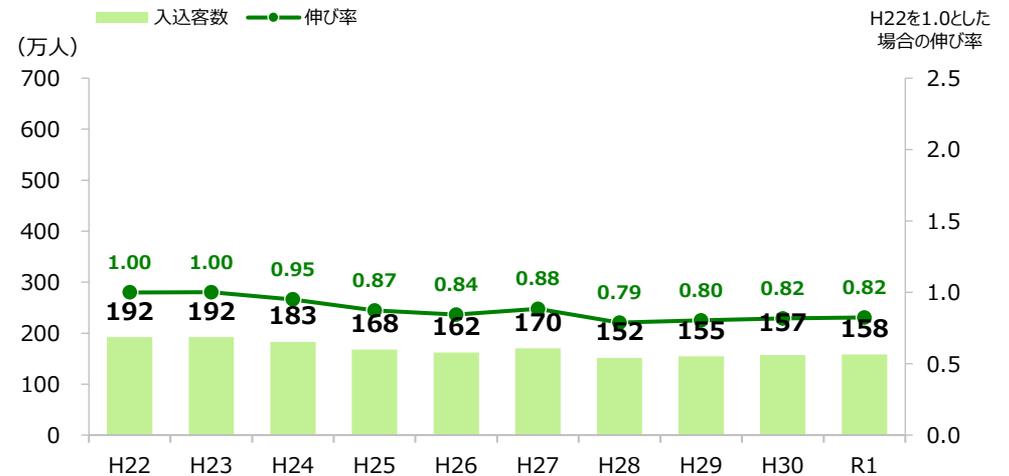
〔岩手県陸前高田市〕



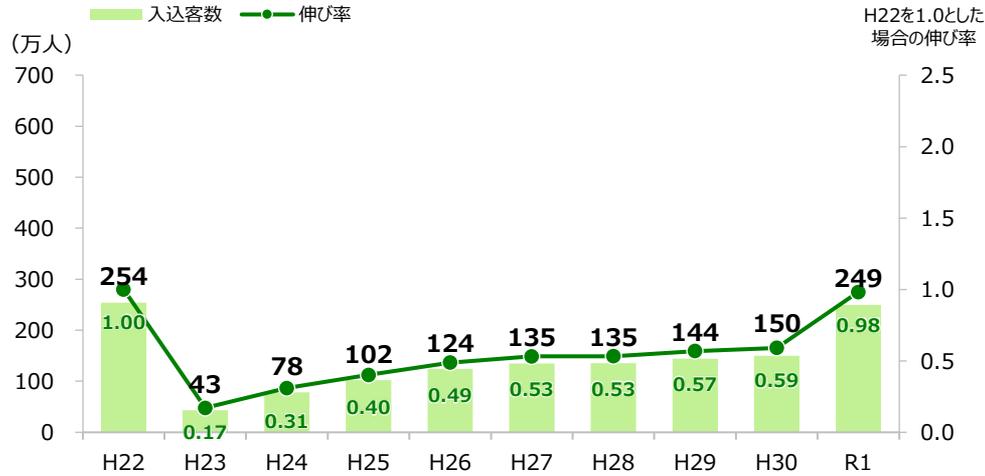
〔岩手県住田町〕



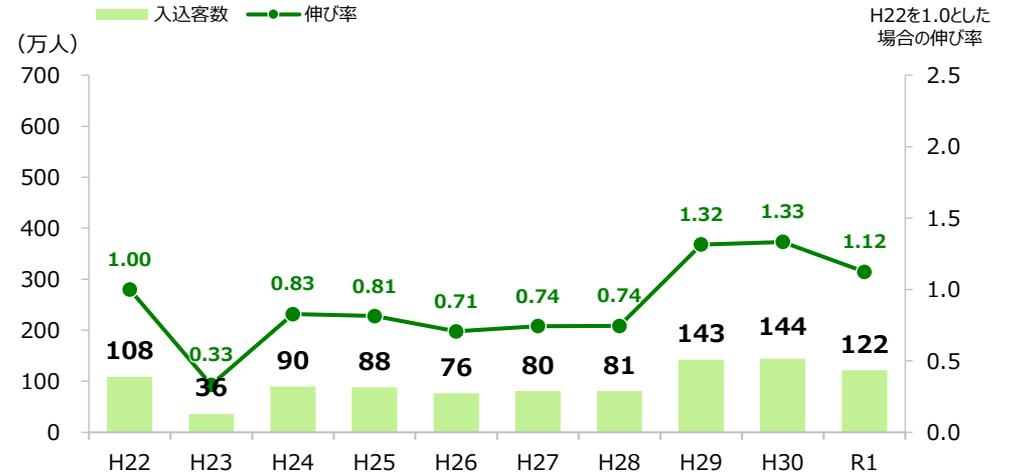
〔岩手県遠野市〕



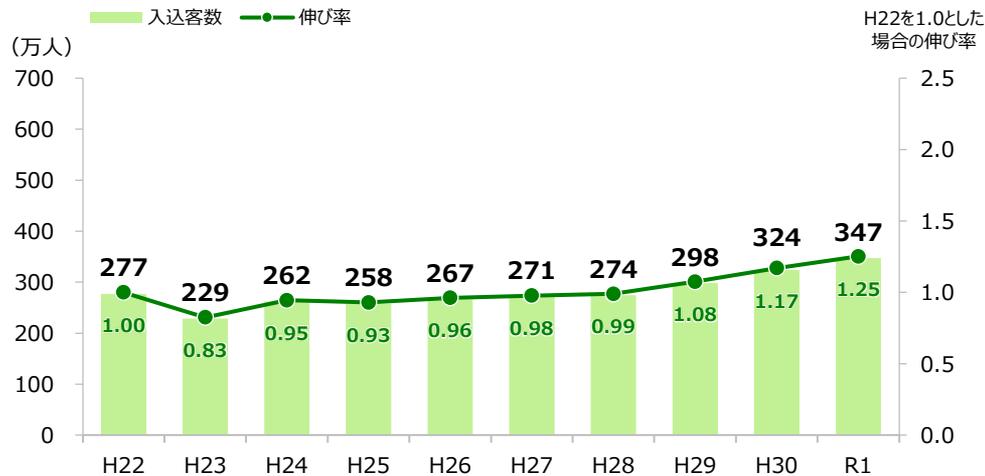
【宮城県気仙沼市】



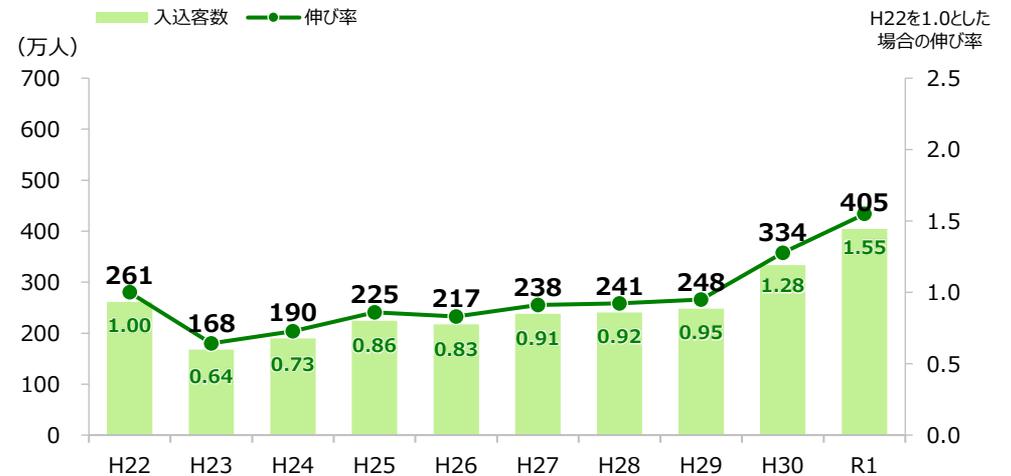
【宮城県南三陸町】



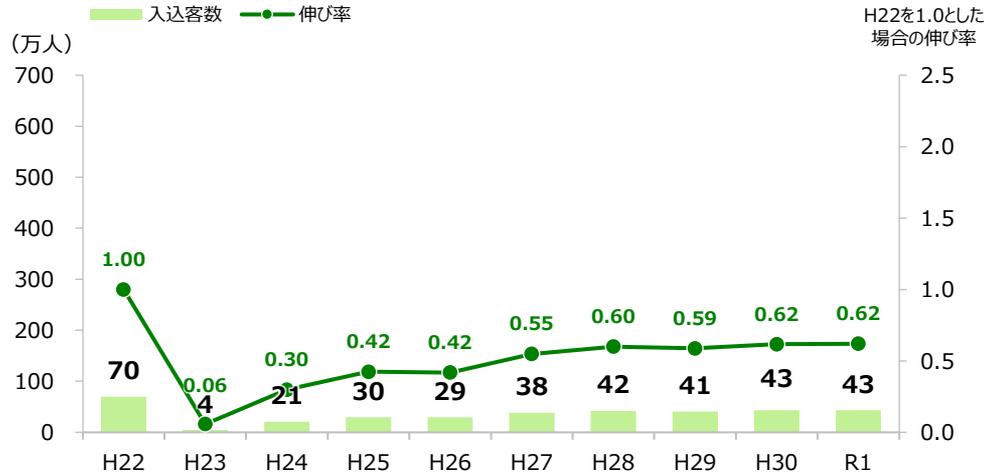
【宮城県登米市】



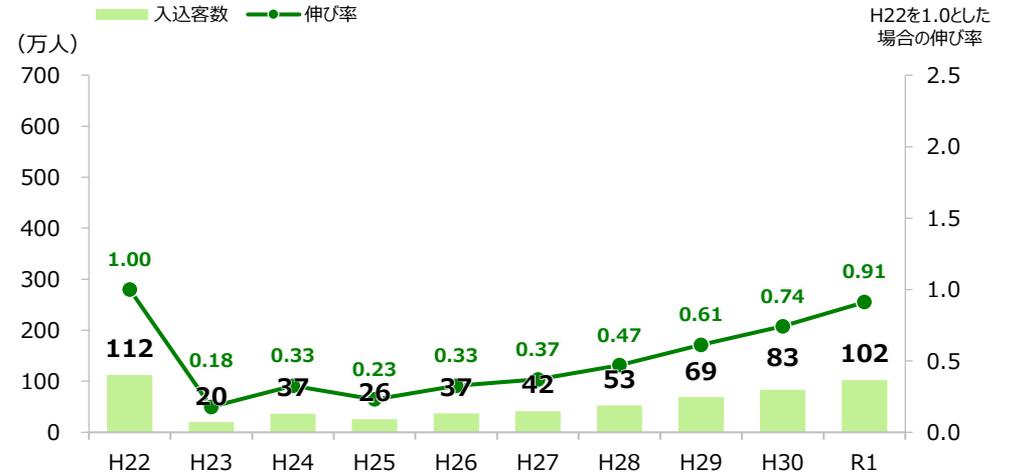
【宮城県石巻市】



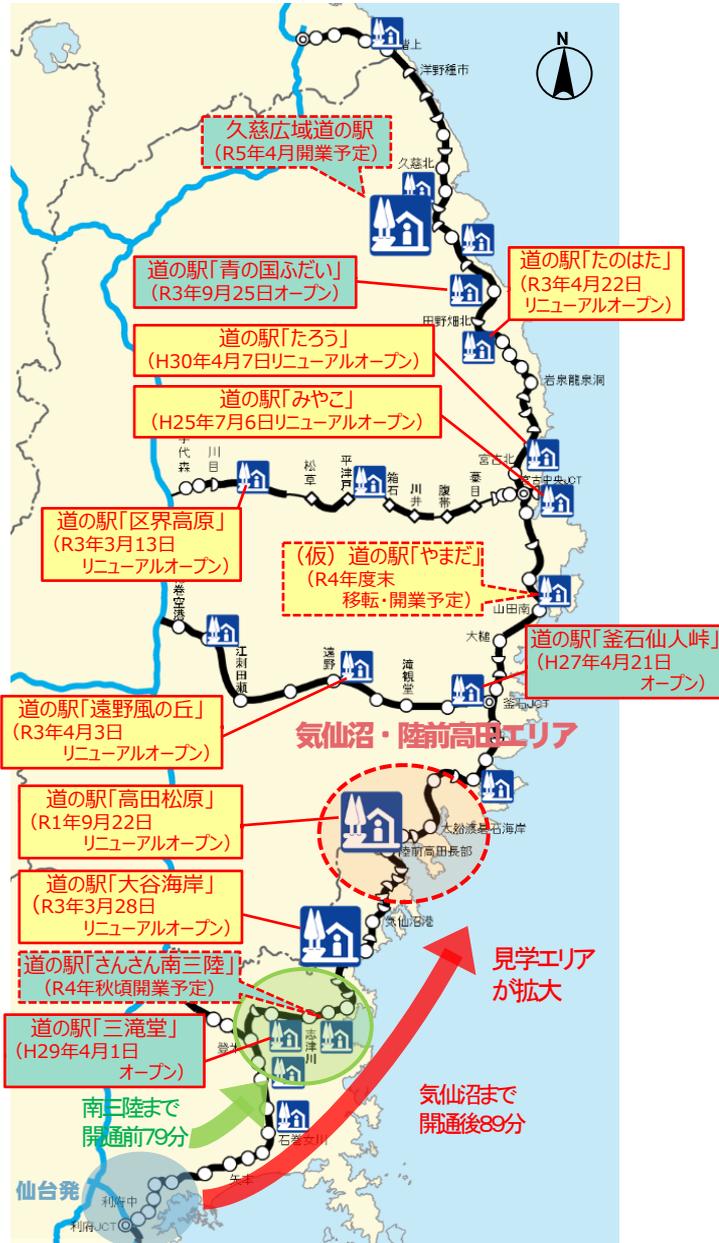
[宮城県女川町]



[宮城県東松島市]



出典：観光統計
※集計期間：各年1月～12月



三陸沿岸道路沿線の道の駅

震災後開業

震災後リニューアル

震災前 (H23.1時点)	震災後 (R4.7現在 ※開業予定含む)
はしかみ	はしかみ
くじ	くじ
のだ	のだ
たのはた	たのはた (R3.4.22 リニューアルオープン)
たろう	たろう (H30.4.7 リニューアルオープン)
みやこ	みやこ (H25.7.6 リニューアルオープン)
区界高原	区界高原 (R3.3.13 リニューアルオープン)
やまびこ館	やまびこ館
やまだ	やまだ (R4年度末 移転・リニューアルオープン)
とうわ	とうわ
遠野風の丘	遠野風の丘 (R3.4.3 リニューアルオープン)
さんりく	さんりく
高田松原	高田松原 (R1.9.22 リニューアルオープン)
大谷海岸	大谷海岸 (R3.3.28 リニューアルオープン)
津山	津山
上品の郷	上品の郷
	釜石仙人峠 (H27.4.21 開業)
	三滝堂 (H29.4.1 開業)
	青の国ふだい (R3.9.25 開業)
	さんさん南三陸 (R4秋頃 開業予定)
	久慈広域道の駅 (R5.4 開業予定)

震災後
5か所開業

計16か所

計21か所

復興道路沿線の震災伝承施設（第3分類）

	施設名	特徴・最寄りIC
1	八戸市みなと体験学習館	グラフィック年表で震災発生から復旧・復興までを紹介。 八戸ICから約20分
2	久慈地下水族科学館 もぐらんぴあ	震災からの復旧・復興の歩みをタブレット等で紹介。 久慈ICから約7分
3	野田村復興展示室	震災全との記録と記憶をつなぐ展示・交流施設。 野田ICから約5分
4	震災遺構明戸海岸防潮堤	決壊した防潮堤を被災当時の姿のまま保存。 田野畑中央ICから約10分
5	羅賀ふれあい公園	明治三陸の津波石、昭和三陸の石碑を移設。 田野畑中央ICから約10分
6	島越ふれあい公園	津波により流出した旧島越駅舎跡地に整備。 田野畑南ICから約11分
7	津波遺構たろう観光ホテル	震災遺構内でマスコミ未公開の映像を上映。津波の恐ろしさを伝える。 田老南ICから約5分
8	たろう潮里ステーション	田老地区の震災・防災学習拠点。 田老南ICから約4分
9	田老防潮堤	原形復旧と新たに整備された防潮堤を同時に望む。 田老南ICから約5分
10	震災メモリアルパーク中の浜	斜頸を駆け上がった津波の高さが一目でわかる。 宮古北ICから約15分
11	宮古市市民交流センター防災プラザ	54の津波石碑を紹介。映像や防災クイズで学習。 宮古北ICから約8分
12	山田町まちなか交流センター	証言映像やパネル展示を交え、震災の教訓や復興までの軌跡を紹介。 山田ICから約5分
13	大槌町文化交流センター おしゃっち	多くの住民が集う施設に震災の記録展示が共存。 大槌ICから約4分
14	3.11東日本大震災 遠野市後方支援資料館	官民一体となった後方支援活動記録を展示。 遠野住田ICから約10分
15	釜石祈りのパーク	東日本大震災の犠牲者を慰霊、追悼する施設。 釜石北ICから約4分
16	いのちをつなぐ未来館	次世代へ向けて防災学習を推進する拠点施設。 釜石北ICから約4分

	施設名	特徴・最寄りIC
17	大船渡市立博物館	大船渡を襲った過去の津波の記録も展示。 大船渡碁石海岸ICから約10分
18	東日本大震災津波伝承館	津波の事実と教訓を国内外と未来に伝える施設。 陸前高田ICから約6分
19	高田松原津波復興祈念公園	追悼と鎮魂、教訓の伝承、復興への意志の発信の場。 陸前高田ICから約6分
20	気仙沼市復興祈念公園	追悼、鎮魂、防災、未来永劫の安寧を祈る場として整備。 浦島大島ICから約7分
21	唐桑半島ビジターセンター	施設改修のため長期休館中。 唐桑半島ICから約18分
22	リアス・アーク美術館「東日本大震災の記録と津波の災害史」常設展示	海とともに生きる地域の未来を考える美術館。 気仙沼中央ICから約8分
23	気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館	被災直後の姿を留めたまま保存整備。 大谷海岸ICから約10分
24	高野会館	自然災害の脅威や、防災減災の大切さを伝承。 志津川ICから約5分
25	海の見える命の森	世代を超えて風景という資産と震災の教訓を伝承する。 志津川ICから約7分
26	石巻市震災遺構大川小学校	遺構、広場、大川震災伝承館で構成。震災をめぐる事象と教訓を伝える。 河北ICから約20分
27	石巻ニューゼ	避難所に張り出した手書きの壁新聞等を展示。 石巻河南ICから約15分
28	石巻市震災遺構門脇小学校	事前防災の重要性や地域を知ることの大切さを学ぶ。 石巻河南ICから約15分
29	東日本大震災メモリアル南浜つなぐ館	語り部活動やジオラマ模型への避難経路投影などを通じて、伝承活動を継続。 石巻河南ICから約15分
30	石巻南浜津波復興祈念公園	犠牲者への追悼と鎮魂、復興への意志を発信する施設。 石巻河南ICから約15分
31	伝承交流施設 MEET門脇	市民目線での悲しみや失敗から未来の命を守る行動変化を喚起。 石巻河南ICから約15分
32	東日本大震災慰霊碑 (日和幼稚園被災園児慰霊碑)	もう二度と同じ悲劇を繰り返さない為の教訓を伝える。 石巻河南ICから約13分
33	東松島市東日本大震災復興祈念公園	伝承館、遺構、慰霊碑を一か所に整備。 鳴瀬奥松島ICから約10分

意見交換 (本日伺いたいこと)

1. 説明資料について
2. 三陸沿岸道路が全線供用して気がついたこと。
(生活、経済、産業、交通 etc)
3. 三陸地域で何を自慢したいか。

今後のスケジュール

令和4年7月13日 第1回検討会

同 11月中旬 第2回検討会
(現地視察、地域関係者意見交換)

令和5年1月中旬 第3回検討会
(コンテンツ検討、周遊プログラム)

同 3月下旬 第4回検討会
(ニース調査、ツアールート案)

同 7月中旬 第5回検討会
(モニターツアー、アンケート結果)

同 10月中旬 第6回検討会
(ツアールートの提案)